

「大名行列ってどうやって江戸まできたの」

千葉市立轟町小学校 秦野 雅美

1. はじめに

6年生の歴史学習は、資料をいかに利用して子どもたちに当時の人々の生活や思いを体感させるかがかぎである。

だが、体験的な学習が子どもたちの意欲を喚起するうえで有効であることはわかっていても、実現が不可能なものも少なくない。ここでは、地図帳を利用して大名行列のルートを推理しながら、大名のもつ力の大きさや大名行列のたいへんさを考えさせていく学習を考えてみた。

2. 大名行列って何？

まず、教科書の「金沢藩の参勤交代図」を読み取る。

- ・13日かけて、江戸まで向かう途中であることを知る。
- ・行列の人数の多さをつかむ。(およそ2000人の規模で、長さが2kmにわたることを補足)
- ・持ち物の多さに気づかせる。

最低限これくらいの事実はおさえておく。

3. 大名行列はどこを通過してきたんだろう。

①地図帳で「金沢」「江戸」の位置を確認し、地図帳から気づいたことを話し合う。(帝国書院『小学生の地図帳(最新版)』p.29～30ほか)

地図帳は発見の宝庫で、「途中に高い山脈がいくつもある」「山を通らなければ江戸へは行けないよ」「大きい川はどうやって渡ったの」「どこを通過してきたのが全然わからないよ」などと、あちこちから声があがった。

日ごろ、歴史マンガや本などを読んでいて、知識が豊富な子どもたちも大名行列の道筋までは詳しくなく、興味津々のようであった。

②地図帳を利用して、大名行列のルートを推理する。

つぎにグループに分かれて、行列のルートを考えさせる。

子どもたちは地図帳とにらめっこしながら、さまざまな考えを言い合いはじめた。

「なるべく楽な平地を選んで江戸へ行ったはずだよ」「大勢の人に見せたいだろうから、人が多いところを通ったんじゃない」「絶対富士山の近くを通過していると思う」などと、子どもなりの発想でルートを考えていった。

③推理したルートを発表する。

もちろん地図帳を使って発表し、その理由も述べさせる。子どもたちが考えたルートは、おもに「一度大阪へ出て東海道を通る」「飛騨山脈沿いに南下し、名古屋から江戸へ向かう」「上越から南下、松本・甲府を通り、富士市へ抜け、江戸へ」などであった。理由としては、「なるべく平らなところを通る」である。

最後に、担任から金沢藩がおもに使ったルートを発表した。北国街道－親不知－上越－長野－碓氷峠－深谷－桶川－東京) ※地名は現在名



残念ながら、子どもたちの考えたルートに正解はなかったが、金沢藩が実際に通ったルートも地形を十分考えていることがわかったらしく、子どもたちも納得したようすであった。(これも地図帳を使った成果?)

4. おわりに

ここでの地図帳活用のメリットは、下記などになる。

①子どもたちが無意識に人間の営みと地形との関係を考えるようになる。

②疑似体験まではいかないが、大名行列のたいへんさや、それを行わせる幕府の意図を具体的に考える手助けになる。

単元の導入として、子どもたちの意欲を喚起するという目的は十分はたせたのではないだろうか。